

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0770403699		
法人名	株式会社 ホライズン		
事業所名	グループホーム内郷		
所在地	福島県いわき市内郷高坂町大町27-1		
自己評価作成日	平成26年2月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成26年3年19日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者のADL低下防止や気分転換の為、毎日ラジオ体操、レクリエーション、食前体操を行っています。また、主治医との連携を大切にし緊急時には主治医の意見やアドバイスをもらえる体制を整えています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者の生活状況や希望に合わせて、一人ひとりが安心して生活ができるよう支援している。  
開設以来継続してきたラジオ体操・食前体操により、食欲増進や事故防止に繋がりが、体力の維持が図られている。  
管理者・職員は利用者の思いを出来るだけ多く叶えてあげたいと思っており、時間と努力を惜しまずケアサービスに努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスの意義と事業所理念を理解し日々実践しています。	開設時に考案した理念をホールに掲示し、毎朝、読み上げ共有することで、職員一人ひとりが常に心に受け止めてケアサービスに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつ地域とのつながりができて、日常的な交流も少しずつできてきました。	子供会のお祭りを見学したり、近隣の同業者のイベントに利用者と共に参加し、楽しみながら交流を深めている。4月から隣組に加入を予定しており、組長さんには、事業所として出来ること・出来ないことを伝え、了解を得ている。出来る限り多くの行事に参加し、地域に溶け込んでいきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を地域貢献として発信できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見やアドバイスはとても貴重なので、今後のホーム運営に取り入れサービス向上に活かしています。	定期的な会議で、各委員から様々な意見・提案・助言を頂き、サービスの改善や向上に反映できるよう努めている。ボランティアの紹介や、利用者の日常生活をビデオ撮影してはとの提案があり、実践に繋げ家族面会時に見ていただき好評を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状報告や質問なども含め、日常的に長寿介護課担当者や包括センターと連絡を取り、協力関係を築いていけるようにしています。	頻繁に訪問し、報告・相談事を通して連絡を密にしており、利用者の紹介を頂くこともあり協力関係を築いている。市のホームページを活用し細かな情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で話し合いをし身体拘束につながらないように努めています。	日中は施錠せず、利用者が自由に過ごすことができるよう、行動に気を配りながらも自然体で見守っている。ミーティングや研修を重ね意識を共有して、日々のケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティング等で話し合い虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について必要性がある場合は、関係者と話し合い活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について十分な説明を行い、理解納得を図るように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見を反映させるように日々の会話や表情の中から組み取るように努めています。	日々の関わりの中で、意見や要望を把握している。家族からは電話や手紙で連絡した際に要望を頂く事もある。買い物回数増加の要望があり、対応に繋げている。今後PCメール・FAXでの連絡を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的なミーティングを行い意見や提案を聞く機会を設けています。	定期的なミーティングを通して、率直な意見や要望を聞き、運営に反映させている。これまで行事の提案や排泄に関する対応方法・対策等、積極的な話し合いをし、より良いケアの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の勤務状況を把握し、処遇への反映、向上、心を持って働けるように職場環境、条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修等の参加が少ないので個々の力量に応じた研修で学んでいければと考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流している法人との研修や情報交換を充実させていきたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と会う機会を作りできるだけ安心して過ごせるように要望等を聞き入れるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等を聞き入れ、またホームの説明も行ったうえでサービスを導入するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活がベストなのか家族の方と話し合いをします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあえる関係を築いていければと思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全ての家族と築くのは難しいですが、出来る限り支えていける関係を築いていきたいです。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの関係を壊さないように心掛けています。	利用者は地域の方が多く、行きつけの理美容室や、地域のスーパーへ出かけ、知人との出合いを大切にしている。他事業所や法人関連事業所のイベントへの参加を通して新しい馴染みの関係ができつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、関わり合いを支え合えるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、依頼があれば出来る限り対応していきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の意向にそえる支援になるように努力しています。	利用者一人ひとりの会話や職員と一緒にの行動の中で、希望や意向をくみ取り、出来る限り希望に添えたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りをし、出来る限り把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合い、わかりやすい介護計画を作成するようにしています。	日常的に利用者一人ひとりの状況を細かく把握し、身体状況やニーズの変化に合わせて随時家族に報告している。本人や家族の意向を取り入れながら、現状に添った介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録で情報を共有し、実践や見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じた支援を行っていけるように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭り、防災パレードなどに出かけています。図書館を活用したりと交流しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意見を大切に適切な医療が受けられるように支援しています。	利用前からのかかりつけ医への受診継続の支援や協力医の往診を定期的に受けている。結果は随時家族に報告し、職員と共に共有している。夜間の状態変化時は協力医に電話連絡し指示やアドバイスをもらい対応している。入院の際は家族と相談し、受け入れ先の橋渡しをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があれば受診や適切な看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側との情報を交換したり相談をして支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所のできる事を十分に家族等に話し、医療機関と共に、共有する事で、チームで支援するように取り組んでいます。	重度化や終末期においては、家族の意向を確認し、その都度相談しながら本人・家族が望む最良の選択ができるよう支援している。最終的には病院対応のケースが殆どだが、希望があれば看取りを行う体制は整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練は、講習会に参加した事がある職員がいます。職場内の訓練は、時々行い少しずつであるが実践力は、身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	万が一に備え、地域の方の協力をお願いしています。また職員にもマニュアルがある事をお話して、全員ではないが、訓練しています。	年2回の消防訓練の他、毎月出火場所や状況を想定した訓練を行っている。大雨により近くの川が氾濫し道路が冠水したことがあり、様々な災害時にむけた避難経路・場所の確保・地域との連携・消防団との協力体制を再確認することができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを傷つけないよう言動には十分配慮しています。	生活歴を充分把握し、個人情報を厳守し、利用者それぞれに合った言葉遣いや対応をし、なれ合いにならないように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望にそえるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは、決まっているが、本人のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせて清潔感のある身だしなみを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等の出来る所はお手伝いしてもらっているが、一緒には食事はとっていません。	利用者は人生経験が豊富であり、出来る範囲で職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。穏やかな雰囲気の中で、会話をしながらゆっくりと利用者のペースで食事を楽しんでいる。職員は用途にあわせた消毒液で除菌・清潔に気を配り、食事時はエプロンを替えて利用者に接している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスや食事の量を考えます。水分量も把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方に応じての口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツ使用を減らしてトイレでの排泄を支援しています。	排泄チェック表を活用しながら、表情や仕草から排泄パターンを把握し、気持ち良く排泄できるよう支援している。排泄行動時は、はじらいや尊厳を保てるよう職員が付き添い対応している。職員は利用者一人ひとりの排泄能力を最大限に引き出し、自立に向けた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物を工夫してみても無理な場合は主治医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を決めているが、希望やタイミングに合わせて支援しています。	利用者の希望や体調に合わせて、いつでも入浴できる準備を整えている。シャンプー・ボディソープも利用者それぞれの好みに合わせて揃えており、気持ち良く入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに応じたり、その日の体調に合わせて休んでもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬を飲んでいるかを理解しており、薬が変われば症状の変化を観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみごとを引き出し気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などは出掛ける機会を設けています。また、家族の協力で外出や外泊を得られています。	近くのコンビニやスーパーへ散歩をかねて買い物に出かけたり、家族の協力を得て墓参り・外食・外泊ができるよう支援している。利用者希望の湯本温泉の足湯や敬老の日のスパリゾートハワイアンズに出かける為の準備中であり、利用者も楽しみにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭管理は家族の方をお願いしていますが、本人の希望する物がある場合は、事業所で立て替えをし職員と一緒に買い物に行きます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があれば本人とお話して会話しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れて、利用者で作った作品を掲示し空間作りに配慮しています。	共有空間は窓が多く四方からの自然光で暖かで明るく落ち着いた環境となっている。壁には四季を感じさせる利用者手作りの作品や折り紙・行事時のスナップ写真が飾られており温かな雰囲気となっている。畳の居間もあり、利用者が自由にくつろげる場所作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地のよい共同居場所を工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	馴染みの物を持ってきてもらう事で、その人らしく安心して生活してもらえるように工夫しています。	それぞれの居室は、使い慣れた馴染みの物が持ち込まれていて、利用者の好みや習慣が感じられる部屋になっている。居室は洋室・和室があり、利用者や家族の希望や状態にあわせ選んでいただいている。希望があれば部屋の移動もできる限り対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱しないように、わかりやすく名称をつけて混乱せず安心して過ごせるように工夫しています。		